

事例

もうすぐパパママ教室「ふれあい育児体験」

慈愛園（熊本県） 〒862-0954 熊本県熊本市神水1-14-1 TEL 096-383-5100

活動の概要

妊婦とパートナーを対象に実際に乳児ホームで働いている栄養士、保育士や看護師がこれからの育児に必要なことを伝え、自分の子育ての見通しと子どもへの愛着形成の基盤ができることを目的としています。内容としては衣類や寝具、オムツなどの説明、実際に赤ちゃんをモデルにした沐浴見学、衣類の着脱やオムツ交換、授乳、抱っこや寝かせ方の体験、離乳食の説明と試食、調理のコツなどを伝え質疑応答、アンケート記入を行っています。

法人の概要

・設立の背景

第一次世界大戦後、日本では米も食べることができないほど貧しいものでした。大正7年(1918)の米騒動は全国各地で暴動になりました。貧困・病気・人身売買はあとを絶たず、社会事業が待望されていました。

慈愛園創設 「散らされた人々を集め、ひとりも失われないようにする」

・立地

大正8年(1919)3月、日本福音ルーテル教会宣教師会は日本の事情に心を痛め、社会事業を開始することを教会総会に提案し承認されました。

初代園長モード・パウラス宣教師は、北米一致ルーテル教会婦人会の寄付により、土地100平方メートルを購入し、子供ホーム・婦人ホーム・老人ホームを新築しました。

・環境

設立当初は熊本の僻地でしたが、現在は熊本市の東部に位置し、県庁、水前寺公園にも近い文教区になっています。

- 経営施設数…12施設
- 法人全体の年間事業収入…1,732,973千円
- 主な経営施設

慈愛園乳児ホーム（乳児院）
 愛光幼稚園（保育所）
 ひかり幼稚園（保育所）
 シオン園保育所（保育所）
 慈愛園子供ホーム（児童養護施設）
 シオン園（児童養護施設）
 熊本ライトハウス（盲ろうあ児施設）
 熊本ライトハウスのぞみホーム
 （知的障害者更生施設）
 慈愛園老人ホーム（養護老人ホーム）
 パウラスホーム（特別養護老人ホーム）
 慈愛園デイサービスセンター
 慈愛園ケアハウス
 シオン園家庭支援センター

実施施設の概要

- 施設名…慈愛園乳児ホーム
- 施設種別…乳児院 定員15名

■施設の運営方針

1. 一人ひとりの子どもに敬意を持って接し、その個性と成長する力を尊重します。
2. 早期家庭復帰が実現するよう家庭を応援するとともに、家庭の意を受けて、
 - (1) 子どもの安心感・安全感の早期獲得を全員でめざします。

1. 地域ニーズへの対応

(1) 施設機能などの地域還元

- (2) ケースマザーとの愛着形成を全員で支えていきます。
 - (3) すべての子どもが基本的信頼を得られるように努力します。
 - (4) 分離体験のもたらす子どもの心理的負担が最小限になるよう努めます。
3. 尊厳ある人として育つにふさわしい環境の整備を怠りません。
 4. 子どもの権利を擁護するため、常に自らを省み、子どもの真の代弁者となれるよう努めていきます。
 5. 乳幼児期の重要性を常に忘れず、遊びを通じて多様な環境のなかで豊富な経験を積むことができるようにしていきます。
 6. 子どもの健康と発達を見守り、全員で支えていきます。

活動の内容

- 活動対象者…妊婦とパートナー
- 活動の頻度…年に4回（4、8、11、2月）第4日曜日（10：00～12：00）2時間
- 年間延利用者数…40名
- 活動開始年…平成元年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

管轄の保健福祉センターの母親学級の一環として行い、園独自の事業となります。

少子化に伴い、実際に赤ちゃんに触れる機会が少ない人や共働きの夫婦が多く、母親だけでは子育ての不安・負担が大きく、協力を求めるには実際に体験して欲しいと妊婦の要望もあり、日曜日に開催しています。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

当日は担当の職員を中心にスタッフ一丸となり、プラカードを持っての道案内、駐車場整理も行い、参加者がスムーズにゆったりと参加できるように配慮しています。

参加費は無料。

受付は当日はもちろん、電話やインターネット（<http://kids.kumamoto-net.ne.jp/baby-home>）でも行っています。

■利用者の声、地域の反応

本を読んだりしての知識はあるが実際に赤ちゃんに触れた事により、母親になる実感がわいてとても楽しく、早く自分の赤ちゃんを抱っこしたいと思うという声や子どもを育てる環境の大切さを知ったという声、声かけの大切さや食事の大切さを感じました。今迄知らなかった乳児院の役割や子育て支援事業を知り、職場に復帰した時には是非利用して、今後はパートナーと二人で子育てをしていきたいという声が多くあり、日曜日に開催されて良かったという意見があります。

活動の成果、地域の影響、今後の課題

日曜日に開催する事でパートナーとの参加が多く、喜ばれています。乳児ホームには各専門家がおり、質問に対しても適切にアドバイスができることが利点です。妊娠中だけでなく、今後の子育ての中での支援事業を伝えることでさらに安心して出産できるのではないかと考えます。他機関とは違い、24時間体制なのでいつでも相談を受け付けることができるのも重要であり、出産後も色々と相談を受け入所につなげたケースもあります。